



自生的近代性の形式体系としての「学(學)」

Hak as the Formal System of Autogenous Modernity

研究背景および問題提起

- ◆ 西洋学問の危機と科学哲学的省察
- ◆ 東洋の宗教としての「学(學)」の独自の地位を考察
- ◆ する必要性。東洋宗教における宗教と学(學)の伝統
- ◆ 的關係

近代性における「学」の意味変化が研究問題として登場

「宗教思想としての東学が他の宗教と最も際立って区別される部分は、宗教を「学(學)」という学術的用語で表現するという点である。」

研究目的および方法論

- 研究目的東洋の「学(學)」を宗教現象学的に究明
- 方法論科学哲学宗教現象学宗教人類学の3つのアプローチを立体的に活用。分析対象東学と大巡思想の主要用語と概念の連続性と変化

宗教現象学的研究方法論の適用

構造的アプローチ
パラダイム理論
的の思惟と分析的の思惟

原理的アプローチ
通過儀礼理論
ナリティ(境界状態)

過程的アプローチ
再活性化理論
変容と伝統の再解釈

「本稿は両思想の主要用語に注目しつつ、用語が持つ意味の連続と変化を、構造・原理・過程という三つの観点をすべて用いて立体的に把握しようとする。」

東洋「学」の宗教現象学的意味

- ◆ 宗教を「学(學)」という学術的用語で表現する東アジア的伝統
- ◆ 天文地理などの自然科学的背景と宗教が区分されない総体的属性
- ◆ 。 「学」が世界観として作用する宗教現象学的意味
- ◆ 東洋「学」の特徴「相関的思惟」を固有の規範とする哲学的思惟体系

「伝統的に東洋で宗教が学として表現された理由の一つは、東洋の宗教は天文地理という自然科学的背景を持っており...自然科学と区分されない総体的な属性を持っているためでもある。」

ニニアン・スマートの宗教現象学理論

- ◆ 世界観=Weltklärungssystem (世界説明体系)+Lebensbewältigungssystem (人生問題克服体系)
- ◆ 7つの宗教次元と文化横断的現象学。宗教を
- ◆ システム的現象学的に見る観点
- ◆

ニニアン・スマートの7つの宗教次元

- | | |
|-------------------|---------------------|
| ● 儀礼的次元(Ritual) | ● 経験的次元(Experience) |
| ● 神話的次元(Myth) | ● 教理的次元(Doctrine) |
| ● 倫理的次元(Ethics) | ● 社会的次元(Social) |
| ● 物理的次元(Material) | |

「文化横断的現象学は宗教学的的研究対象としての世界観を大きく二つに区分する

。 」

宗教人類学的アプローチ

- ◆ 問題解決としての宗教原理、構造、過程の3つの観点

原理(Principle)

ファン・ヘネップの通過儀礼(rite of passage)とターナーのリミナリティ(Liminality)理論

構造(Structure)

パラダイム(paradigm)としての宗教、東洋の相関的思惟と生成論的方法

過程(Process)

ウォレスの再活性化(revitalization)モデル、文化接変と情意的適応

- ◆ 東学~大巡思想に現れるリミナリティ(境界状態)と儀礼の変化
- ◆ 相関的思惟万物の相互連関性に基づいた東洋特有の思考方式。
- ◆ 生成論的方法と存在論的方法の比較

「相関的思惟は上から下へと生成されていく演繹的原則を持つ東洋の生成論的思惟方法に該当する

。 」

東学と大巡思想の比較分析

- ◆ 東学および大巡思想の用語と概念に現れる連続と変化
- ◆ 近代性の脈絡における両思想の学(學)概念の適用
- ◆ 事例の分析構造・原理・過程という観点を同時に活用

区分	東学	大巡思想
学(學)の意味	東洋的学問体系としての宗教	相関的思惟に基づく自生的近代性
世界観特性	東西方法論の対立構造	統合的リミナリティ段階
核心思惟	生成論的方法	相関的思惟の体系化

「東学思想と大巡思想に現れる伝統の連続と変化は、主に用語と概念上の意味変化として現れる。」

結論および意義

- ◆ 東洋「学(學)」概念の宗教現象学的価値の究明
- ◆ 東学から大巡思想へと繋がる伝統と変化の意味。自生的
- ◆ 近代性研究の拡張可能性および後続研究の提言。東西洋
- ◆ 学問の相互補完的方法論模索のための基礎研究

総合的結論

東学思想における「学」は単なる知識体系ではなく、相関的思惟を通じた世界観的システムとして自生的近代性の形式体系として作動しており、これは現代宗教現象学的研究を通じて東西洋思想の統合的理解を可能にする

研究の意義

宗教現象学と宗教人類学の方法論を統合適用して東洋の「学」概念を体系的に考察することにより、自生的近代性の新たな理解可能性を提示する

後続研究の提

多様な東アジア宗教思想に現れた「学」概念の比較研究および現代的適用可能性を探索する学際的研究が必要